

令和7年度 建設施工の地球温暖化対策検討委員会 議事概要

1. 日時：令和7年5月26日 13：30～15：30
2. 会議方法：中央合同庁舎3号館11階DXルーム【ハイブリッド形式（対面+Web）】
3. 議事概要

議事1 GX建設機械認定制度について

【委員からの主な意見】

- GX建設機械認定制度における規程の意味を確認したい。
→GX建設機械の認定に関する規程の中で基準値（暫定規程では未設定）や必要な申請書類等を定めて運用している。今後、その中に電力消費量基準値を盛り込むことになる。
当該認定を取得していないと販売できないわけではない。
- 電力消費量基準値の検討について、GX建設機械認定制度が始まったばかりでデータ数が少ないため、統計的処理とはならないと思われる。
また、現時点では電動建機の数が少ないので、基本的には well to wheel やトップランナー方式での評価は難しく、最初は tank to wheel になると思われる。
- エネルギー消費量の試験方法については、ISO化に向けて準備を進めており、世界で統一した試験方法となるように進めている。
- 電力消費量基準値の議論をしていく中で、従来建設機械（ディーゼルエンジン）との比較が大切であると考えている。
- CO2削減効果を明らかにするとともにエネルギー変換効率を確認しておく必要がある。
- 将来的な議論としては根幹の排出原単位を決めてエネルギー変換効率を考えたものが恒久的になると思う。
- 電動建設機械分野では他国の技術が進んでいるため、海外動向を注視しながら進めていきたい。

議事2 建設機械の脱炭素化に関する取組について

【委員からの主な意見】

- 全体工事に占める国の直轄工事の割合は少ないが、新しいことを取り入れる時にはICT施工のように直轄工事から始めて全体（自治体）へと広げていくことになる。
- 工事現場は絶好のPRポイントなので、脱炭素に関するステッカー等を使ってどんどんアピールしていただきたい。
- 総合的なCO2削減を進める上で、ICT施工と電動化とはかなり相性が良いと考えている。
- チルトローテータについて、欧州では多く使われているが日本では殆ど使われていないと聞いている。日本でもこの技術を取り入れることで社会課題の解決に寄与するものと期待している。

議事3 その他（（一社）日本建設機械施工協会からの情報提供）

【委員からの主な意見】

- 新たな機種のエネルギー消費量試験方法を検討しており、電動ローラ、電動クローラクレーン、電動基礎工事用機械について、GX 建設機械の認定に必要な JCMAS 規格の制定作業を進めている。
- 「建設現場 CO2 可視化推進会議」では、建設現場で発生する CO2 排出量を定量的に把握するための手法を定めようと検討している。